令和３年度

和光市立広沢小学校

学校経営計画

令和３年度　和光市立広沢小学校　学校経営計画

新しい学びの広沢「笑楽幸」

昨年度から施行された「新学習指導要領」において、児童の学びの姿として「主体的・対話的で深い学び」が重要であることが述べられています。また「ソサエティー５．０時代」を生きる子供たちにとって、必要な「学力」とは、テストの点のような数字として表れる能力だけでなく、「思考力」「表現力」「実践力」、また、それらを支える「自己肯定感」「創造力」「粘り強さ」「自制心」等、いわゆる「非認知能力」を含んだものです。そして新型コロナの流行によって加速された「ギガ・スクール構想」により、和光市でも「学習者に一人一台のタブレット」が導入されました。

新たなＩＣＴを有効に活用し、子供たちに真の「学力」を身につけさせることができる学校、そして、子供たち・保護者の皆様・地域の皆様、教職員が、「笑顔で、楽しく、幸せに」なれる学校、広沢「笑楽幸」を目指していく。そういうイメージから、本年度の学校経営イメージワードを

新しい学びの広沢「笑楽幸」

としました。本年度も、保護者の皆様、地域の皆様には、学校経営へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1　学校教育目標

「ひろい心で　さわやかに」

広沢小学校の歴史の中で、受け継がれてきた学校教育目標です。広沢小らしい斬新な学校教育目標です。学校教育目標は児童のあるべき姿だけでなく、教職員の姿、地域・保護者との関係性としても、目指すべき姿です。

2　目指す学校像

目指す学校像とは、本校が目指す到達点であると考えます。

（１）学校・地域・保護者が子供たちのために連携し、問題解決を推進する学校
（２）教職員が「ほうれんそうのおひたし」の精神を持ち、連携して働く学校
（３）児童がソサエティー５．０時代を生きる力を学べる学校

3　目指す児童像

目指す児童像は、目指す学校像が児童の学びの視点において、具現化された姿と捉えます。

（１）主体的に学ぶ児童
（２）対話的・協働的に学ぶ児童
（３）深い学びを体現できる児童

「主体的・対話的で深い学び」の実現

4　本年度の重点目標

（１）コミュニティ・スクールによる学校運営を推進し、広沢小ならではの「社会に開かれた教育課程」による、生きた学びを推進する。

- 「コミュニティ・スクール」や「社会に開かれた教育課程」について、理解を深める。
- 広沢小学校区の地域性を生かし、家庭や地域と共に、子供たちのために何ができるのかを家庭や地域と共に考える。

（２）常に「ほうれんそうのおひたし」の意識を持って職務を推進する

- ホウ**「報告」**
  教職員間・管理職への報告・保護者への報告。→must 事項。多くの事件事故が一人で処理することで発生する。
- レン**「連絡」**
  教職員間の連絡事項の確実な周知徹底・保護者・児童への正確な連絡。→must 事項。学年間での共通認識を持つ。・・だろう。・・に違いないは×。

- ソウ**「相談」**
  一人で抱え込まない。年齢差・経験差・役職の違いを気にしない。学校での児童の様子を保護者と共有し、共に育てる意識。→　職場の雰囲気が重要。風通しの良い・明るい職場。保護者目線に立ち、「共育」する意識。
- お**「怒らない」**
  アンガーマネージメント。「怒らない」≠「指導しない」。実態に応じた多くの「指導の引き出し」を持つ。
- ひ**「否定しない」**
  児童の持つ「良さ」に着目する。ありのままの児童を承認し帰属意識を持たせる。
- た**「助ける」**
  児童が何に困っているのか、どこに躓いているのかをよく観察。
- し**「指示する」**
  指示は「明確・簡潔」に。指導すべき事はしっかりと。

（3）ソサエティー５．０時代を生きる力を育成する視点を持って児童の学びを推進する

- 「主体的・対話的で深い学び」を日々の授業で実践する。

児童が**「主体的な問い」**を持ち、その解決のために**「教師・教材・友達と対話」**し、協働的に学び、**「生活に生き、これからの学びに繋がる学び」**を習得できる授業を日々、実践する。

- 広沢小「学力向上プラン」に沿った授業を日々、実践する。

思考のズレを生かす

教師主導型授業からの脱却

楽しそう・やってみたい・意味があると思える単元設計
今後の生き方に関連づけられる教材開発
子供たちが自分から話したくなる課題の設定
感動や実感を伴う学び・将来に役に立つ学び
授業で学んだことが、生活でも使える学び

コーディネイト発問

逆思考の授業設計

- 「主体的・対話的で深い学び」に即したＩＣＴの活用

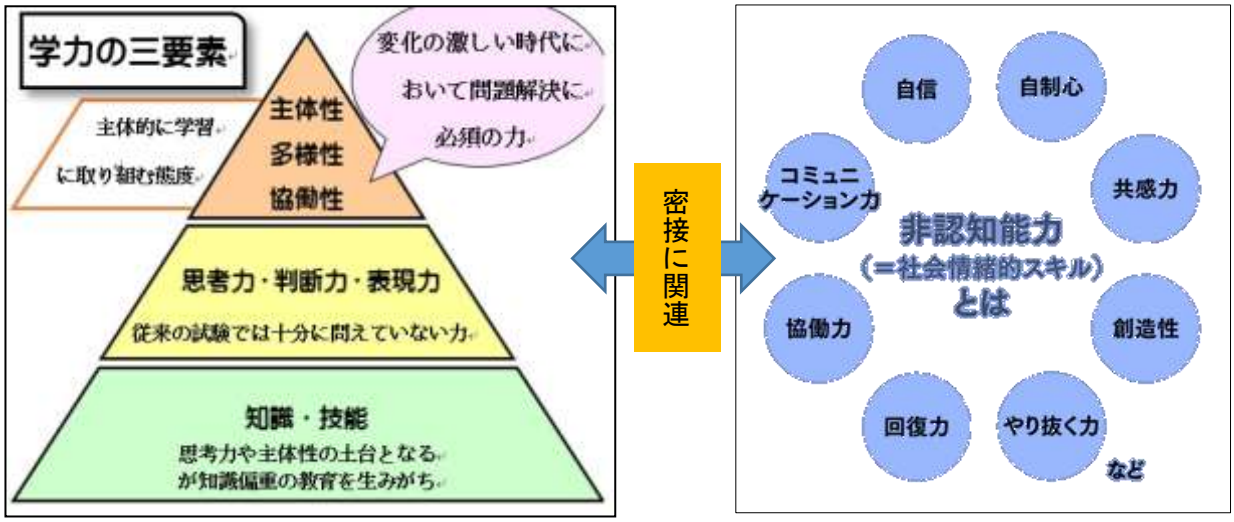
ＩＣＴの活用＝「主体的・対話的で深い学び」ではない。

一人一台の学習用タブレットを使って、いかに「主体的・対話的で深い学び」を実践するかという視点で、活用方法の研修を推進する。
基礎力育成・・・タブレットのドリル・ワークの活用・ＱＲコード活用等
思考力育成・・・グループワーク・ポジショニングの活用、チームスの活用等
表現力育成・・・発表ノート・プレゼンテーションソフトの活用等
家庭と学校の学びの接続・・・反転型学習等

- 新しい学力観に沿った学びの推進

知識・理解偏重型の学びから脱却する

学力を支える「非認知能力」を育成する



知識・技能の取得のためには、「やり抜く力」や「自制心」が必要。
思考力の育成のためには、コミュニケーション力や創造性が必要。また、協働し共感することで他者の思考に触れ、そこから自分の考え方が生まれる。
主体性を育むには、創造力・自信が必要。また挫折してもまた回復できるメンタルも必要。

- **ＳＤＧｓ（持続可能な社会実現を目指す１７の目標）教育の推進**
研修実践と、年間指導計画への活動位置づけ。ＥＳＤプロジェクト型学習の実践。
- **言語能力を育成するための国語科教育の研究**
「言語（ことば）」は学び・生活の土台。
「授業を支える言語能力の育成」・・語彙力・聞く力・話す力・コミュニケーション力
「読むことに関わる授業の改善」・・主体的に学ぶための仕掛け。系統的な学び。

（４）児童が安心・安全に通える学校を創る

- いじめ・いじわる・いやがらせを見逃さない。「初期対応」「個別対応」「継続対応」。「いじめに関する記録」の共有と組織的対応・継続的対応への活用。
- 不登校初期段階での確実な対応と、保護者・地域との連携。
- 児童の自己肯定感を高める「ボイスシャワー」を教職員全員で組織的に。
- 「あいさつ」「そうじ」「言葉遣い」等、「広沢小学校のきまり」の徹底。

凡事徹底（ぼんじてってい）

（５）学校の活力を生み出すための「働き方改革」を推進する

学校が前に進むための活力を生み出すためには、教職員の心と体の「余裕」が必要。

- 「今までやっていたから」ではなく、「対費用・対児童・対保護者効果の高い効率的な仕事」「仕事にムダはないか」という視点を持つ。
- 共に「ちえ」を出し合い、職場環境を改善する。チーム学校の意識改革。